

2018年11月12日 不祥事が続く理由の考察

※一言要約： 不祥事の理由は、近視眼的成果に飛びつくから！

企業の不祥事のニュースが相次いでいます。

軽重がありますが、タカタの欠陥エアバッグ、東芝の利益水増し不正会計、SUBARUの無資格検査員による検査、神戸製鋼所のアルミ・銅・鉄鋼製品などの検査データ改ざん、三菱自動車による燃費試験のデータ改ざん、日産の無資格検査員の最終検査など、企業の信頼失墜のネタは、限りなくあるのが現実です。

これまでは、「日本は長い間、誠実さ、確実な品質、製品の信頼性において輝ける手本になっていた」と言われてきました。即ち、「決められたことは守る(品質・納期など)」ことに、大きな信頼を得てきたのです。ところが、昨今の不祥事報道が多いのは何？……。

この不祥事が続く理由は、何なのでしょう？

いろいろな理由が各々あるのですが、大きくは「二つの矛盾した命令」に対し、近視眼的成果に飛びついてしまうことが多いようです。

具体的には、一方では、「コンプライアンスを徹底し、決して不正をしてはならない」とトップが命令する。他方では、「納期は厳守しろ」「コストは上げるな」と上司が命令する。上司もこの命令が守れなければ、自分の立場が危くなるので必死なのです。

そこでこんな矛盾する内容の圧力が日常化しているような会社など辞めてやる！と言える者は、さっさと転職していく。

しかし、会社は辞めたくない、辞められないと思っている者は、精神が混乱し、悩み苦しみ、最終的には自分の責任で不正を続けていくこと(一方の命令をスルーすること)を選んでしまうと考えられます。これでは、その時は近視眼的な成果が得られるでしょうが、必ずその不正は発覚し、大きな信頼の失墜になり、得られた成果の何百倍、何千倍の不利益を引き起こすのです。

ここで、もう一度、企業の社会的責任について、考えてみる必要があります。

「自分の会社の製品、サービスにおいて、よい製品をつくり、よいサービスを行うこと」

この責任を果たせない企業、経営者、従業員は、いずれは衰退の一途をたどるのです。

何をするにしても、やっぱり「正直」が一番ですよ。